

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月21日

【評価実施概要】

事業所番号	3650280211
法人名	医療法人 真誠会
事業所名	グループホームひなたぼっこ
所在地	徳島県鳴門市大津町矢倉字四ノ越3番 (電話) 088-685-3605

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年6月21日

【情報提供票より】(平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤 12人, 常勤換算 ユニット1:6.5人 ユニット2:5.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	9 名	要介護4	2 名		
要介護5	— 名	要支援2	— 名		
年齢	平均 89.1 歳	最低	68 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	原田内科
---------	------

徳島県 グループホームひなたぼっこ 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は旧吉野川河口近くの静かな田園の中に位置している。『一人ひとりの思いを叶え生きがいを見出し住み慣れた町でその人らしく暮らし続けられるよう支援する』を理念に掲げ、運営者と職員が熱意を持って取り組んでいる。リサイクル活動や行事などの地域との交流が生きがいとなり、利用者の明るい表情や会話に表れている。また、医療連携体制がとられており、医療機関との密な連携が安心へと繋がっている。市からの介護相談員を受け入れており、利用者の不安や相談事などについても積極的に支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価での改善課題はなかった。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が評価の意義を理解して自己評価に取り組み、サービスの改善に向けた検討や実践に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は過去1年間に6回開催されており、家族代表、民生委員、地域住民、老人会会長、地域包括支援センター職員、市職員、市内グループホーム職員、事業所関係者によって構成されている。内容は介護保険改正や災害時避難訓練、外部評価事業等について討議され、事例や市が開催する介護相談報告会での内容も話し合われている。会議録は全職員に回覧され、確認したことがわかるサインがある。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会等で出された意見や要望はミーティングで話し合い、迅速に対応されている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域老人会の定例会や行事に参加したり、近くの保育園の運動会や小学校の資源リサイクル活動などへ参加している。また、毎日の買物や散歩での挨拶、秋祭りや阿波踊りにもでかけるなど地域との交流が図られている。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、理念をつくりあげている。住み慣れた地域での安心した生活の継続を支えるための理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の唱和やミーティングでの話し合いにより、職員全員が理念の実現に向けた意識統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域老人会の定例会や行事に参加したり、近くの保育園の運動会や小学校の資源リサイクル活動などへ参加している。また、毎日の買物や散歩での挨拶、秋祭りや阿波踊りにもでかけるなど地域との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員が評価の意義を理解し、ミーティングや運営推進会議などで話し合い、課題の改善に向けた具体案の検討や実践に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は過去1年間に6回開催されており、家族代表、民生委員、地域住民、老人会会長、地域包括支援センター職員、市職員、市内グループホーム職員、事業所関係者によって構成されている。内容は介護保険改正や災害時避難訓練、外部評価事業等について討議され、事例や市が開催する介護相談報告会での内容も話し合われている。会議録は全職員に回覧され、確認したことがわかるサインがある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者からの相談を聞いてもらうために月2回、介護相談員を受け入れている。また年2回は市職員や介護相談員、事業所職員との報告会が行われ、サービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	一人ひとりの暮らしぶりや健康状態について、電話や電子メールで報告している。「ひなたぼっこだより」を季節ごとに配布し、行事の様子などを知らせている。預かり金の出納は毎月家族の確認をもらっている。職員の異動(新任の職員)については写真と名前を利用者や家族の分かりやすい場所に掲示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等で出された意見や要望はミーティングで話し合い、口頭で報告している。また、内容は記録として残し、職員全員が回覧・共有したことがわかるサインなどがある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視し、職員の異動は最小限にとどめている。やむを得ない異動などがあつた場合には文書で知らせたり、引き継ぎ期間を十分に確保するなど工夫している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	隔週土曜日に法人内の勉強会が開催されている。また、事業所外の研修や講演会等にも積極的に参加している。内容は職員全員に回覧され、確認された事がわかる記録がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者はグループホーム協会委員であり、近隣の事業所とネットワークを通じて相互訪問や意見交換等を行い、日々のサービスに役立つ実践的な交流や連携が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に事業所を見学してもらったり、職員が自宅に訪問するなど納得されたうえで利用できるよう工夫している。また家族にできるだけ多く来訪してもらえよう依頼したり、馴染みの物品を持って来てもらうなど、安心して利用できるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者は人生の先輩である」という思いを職員全員が共有している。料理の味付けや慣習、年末年始の過ごし方などを教えてもらうなどして、共に過ごし支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との対話や日々の生活の中での表情などから、希望や意向の把握に努めている。また、意思疎通が困難な場合には家族や職員などと話し合い、本人本位の支援となるよう検討している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう本人や家族の要望を聞き、職員全員が関わって介護計画を立案している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しを行っている。状態に変化が見られたとき等はその都度見直している。計画は本人や家族、主治医など関係者間での話し合いのうえ作成され、家族の確認印がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制がとられており、医療機関との密な連携が安心へと繋がっている。家族からの要望等により通院の送迎などの必要な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望にあわせたかかりつけ医の受診支援を行っている。受診時にはかかりつけ医と情報交換している。また、家族からの要望によって通院支援を行った時は診察結果を報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始段階から家族、医師、職員などで話し合い、重度化した場合や終末期についての方針を統一している。また、状態の変化がある度に関係者間で話し合いを重ね、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーを損なわないよう、ゆつくりと穏やかに言葉かけを行うなどの対応を心がけている。また、個人情報を含んだファイル等はロッカーに保管し、誰もが閲覧できないようにするなど、秘密保持の徹底がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な日課でなく、入浴時間や散歩への参加などは一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理、盛りつけ、後片づけなどを利用者と職員が共に行い、同じテーブルを囲み食事が楽しみなものとなるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴したい日や時間に楽しめるよう、いつでも入浴できるように支援している。入浴を拒否する方には職員が交代で声をかけたり、時間を変えて誘導したりするなど一人ひとりの希望やタイミングにあわせて柔軟に支援している。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事の分担や畑仕事、園芸、楽器演奏、カラオケ等、利用者の経験や得意分野での力を発揮できる場面をつくっている。また、地域行事への参加や四季折々の花見などは利用者と日程や行き先を相談して楽しみながら行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑仕事や散歩、食事の買い出しなど一人ひとりの希望にそって日常的に戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出された時はさりげなく声をかけたり同行するなど、安全面に配慮し、日中は鍵をかけないケアを実践している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回、法人内での避難訓練を行っている。また、年1回、消防署の指導で避難経路の確認や消火器の使用方法などの訓練を行っている。また、地域の協力体制については運営推進会議での呼びかけで自治会や消防団等との連携が図られている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は毎日チェック表に記録し、職員間で情報を共有している。カロリーの過不足や栄養の偏りなどについては、母体法人の管理栄養士から専門的なアドバイスをもらっている。		
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には季節の花を飾っている。食堂の丸いテーブルは安全への配慮が感じられる。リビングの大きなソファでは窓越しに景色を眺めることができ、ゆったりと心地よく過ごせるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やアルバムを持ち込まれている。キーボードで好きなメロディーを奏で楽しんでいる利用者もいる。人形や自分で完成させたジグソーパズルを飾るなど、居心地よく暮らせるように工夫されている。		